

飯舘 百景

春よ、来い



多田直正さん(宮内)の庭に咲いた福寿草。開花後に雪に埋もれても花を閉じてじっと耐え、再び花を開きたくましさがあります。陽の光を想起させる鮮やかな黄色と可憐なフォルムは、春を迎える喜びを宿しているかのようです。



丘の上に向かって続く仲良しウサギの足跡



冷え込んだ朝、雪をまとった枝と青空が共演



植物もそれぞれ準備万端で春を待っています

一度は緩んだ寒さが再び強まり、2月後半の飯舘村は、大変寒い日が続きました。県内だけではありません。日本の上空に寒波が居座り、北海道から北陸にかけて、各地で記録的な大雪となりました。

立春を過ぎ、村内で春の兆しを見つけようとしていた矢先に、景色は真冬に逆戻り。ふくらみかけた木々の花芽も、寒風にじっと耐える日が続きました。

賑やかに咲き始めた福

寿草の群生も、雪の日が続いて、一旦は見渡す限りの雪野原に閉じ込められてしまいました。

福寿草は、キンポウゲ科の多年草。光や温度に敏感で、陽がかけると花がしほみ、陽がさすと再び開くことを繰り返すそうです。鮮やかな黄色と張りのある質感はパツと明るく、冬枯れの野に映えます。「福」「寿」とめでたい漢字を連ねた縁起のよい名前からも人気が高く、年末には正月用の鉢花が店頭に並ぶそうです。旧暦の正月の頃に咲くことから、「元日草」の別名があり、新年の季語にもなっています。

寒波が去り、福寿草が雪の中から現れました。待ち遠しい春が、すぐそこまで来ています。寒さを耐えた分だけ、身に染みてうれしい春の到来になるのではないのでしょうか。